



# ふくしまオーガニック通信

～オーガニック・ランドふくしまをつくろう～



No. 25 - 4

平成25年12月13日

農業総合センター有機農業推進室

<http://www4.pref.fukushima.jp/nougyou-centre/>

TEL (024) 958-1711

## 有機交流バスツアーを実施！

～ 消費者を加えての合同大収穫祭 ～

農業総合センター有機農業推進室 会津農林事務所農業振興普及部

11月9日(土)に、首都圏から消費者を招いての『有機交流バスツアー』を会津美里町で実施しました。

これは、『会津自然塾』の収穫祭に首都圏の消費者も参加してもらう形で行いました。

受入側は、会津自然塾に加えて『喜多方ゆきの和』と『八木沢菜の花会』が当たりました。

バスツアーに参加した人数は20名で、早朝6時に東京駅を出発し、会津まで来ました。車中では、添乗員の方に福島県及び会津地方の有機農業のお話をいただきました。

大収穫祭は正午から始まり、参加者は会津産の有機米を使った「混ぜご飯」や「おにぎり」、有機野菜や自家製味噌を使った「いも煮汁」、食用菊や「漬け物」などの『食の交流』を図りました。餅つきが行われ、雑穀の「粟」加えたものと「黒米」を加えたもののがつかれました。紫さつまいもを使った焼き芋も提供されました。バスツアーに参加した方々は、大いに食べ、残った漬け物などもビニル袋に詰めて持って帰っていました。また、有機農産物や農産加工品、手絞りのなたね油などについて、詳しい説明を生産者から直接聞いたり、自分の意見を述べたり、大いに会話を楽しんでから購入していました。

収穫祭の後半では、各生産者が提供した品々を景品に、抽選会が行われました。ツアー参加者全員が、それぞれ米や身不知柿などのプレゼントを受け取り、一言ずつ交流会に参加しての感想を述べていました。

合唱団『ふきのとう』によるミニコンサートが行われ、最後に全員で「花は咲く」を歌いました。ツアー参加者は、大いに満足して帰路につきました。



開会のあいさつをする会津自然塾 鹿野代表



焼き芋を食べながらお話しをしました



会話をしながらの買い物



粟、黒米入りの餅をつきました



楽しく、美味しく食事しました



最後に交流会の感想を述べてもらいました

## 産業労使『秋祭り』会場で有機農産物を販売！

～ オーガニックふくしま安達と会津自然塾が参加 ～

農業総合センター有機農業推進室 会津農林事務所農業振興普及部

11月12日（火）の夜18時から、東京都千代田区のホテル「グランドパレス」2階で行われた、産業労使『秋祭り』会場において、福島県物産展の中で有機農産物や加工品の販売を行いました。

参加したのは、二本松市の「オーガニックふくしま安達」と会津美里町の「会津自然塾」の2つの団体でした。安達はシードルや地ビール、乾麺などの加工品と有機綿の手ぬぐいを販売し、自然塾は多種類の野菜や身不知柿、有機ニンジンや有機トマトのジャムや有機キュウリのピクルスなどの瓶詰め、自家製味噌などを販売しました。

隣では、色々な福島県産品の販売を



販売開始前（右端：鹿野さん）



「キビタン号」(移動型ミニアンテナショップ)が行っていました。

また、「オーガニックふくしま安達」の関さんと「会津自然塾」の鹿野さんは、環境保全農業課の二宮主任主査と共に、福島県農業や有機農産物の現状についてスピーチし、来場していた多くの企業・労組・団体の皆様方に訴えました。

関さんは、自慢のシードルを『秋祭り』に参加されていた安倍総理大臣の昭恵夫人に差し上げていました。

安倍昭恵総理夫人も参加

## オーガニック E X P O に参加 !

～ 食品スーパーやレストラン等と商談会 ～

農業総合センター有機農業推進室

10月31日(木)から11月2日(土)までの3日間、東京都江東区有明の東京ビッグサイトで行われた『オーガニック E X P O 2013』に『福島県』としてブースを出し、有機農業者のために商談の機会を設けました。

往路の日程は、会津からの参加者が早朝5時半にバスで会津若松市を出発し、郡山市の農業総合センターに寄り中通りや浜通りの参加者を6時半頃に乗せ、10時頃に会場に着くというものでした。

参加した有機農業者は、初日が5名、2日目が9名、3日目が8名でした。会場では、各日に県関係者4名がサポートし、交渉のアドバイザーとして「オーガニック事業協会」の南埜さんと「オルガバンク」の甲斐谷さんに加わっていただきました。

『福島県』のブースには、事前に予約が入っていた業者のほかに、福島県に関心を示した業者の方も訪れ、農業者と話し合いを持っていました。

参加者は、商談以外の時間には各自で他のブースを見学したり、各種のセミナーに参加したりと研修をしていました。

復路は、17時頃に会場を出発し、郡山市には21時頃に到着し、会津若松市には22時頃の到着となりました。

初日と2日目は業者のみの参加でしたが、3日目は一般客も入場したため、「オーガニックふくしま安達」で持参した発泡酒を試飲販売しました。また、翌週に行われる『会津への有機農業者との交流バスツアー』の広報も行いました。



賑わう『福島県』ブース



発泡酒の説明をしている関さん

## オーガニックフェスタが開催される！

～ 消費者と生産者等の理解・交流促進事業 ～

農業総合センター有機農業推進室

去る11月23日(土)に、郡山市のビッグパレットにおいて『ふくしまオーガニックフェスタ2013』が開催されました。

この行事は、首都圏や県内の消費者を招き、①県内の有機農業生産者の取り組みを伝え、顔と顔の見える交流を図ること、②放射性物質対策や測定状況を紹介し、食品と放射能に関する正しい知識の理解促進を図ることを目的に行われました。

実行委員会は、「NPO法人福島県有機農業ネットワーク」が中心となり、多くの関係者が加わり、事前に7回も実施され、万全の準備を図りました。

このフェスタには県内の有機農業生産者やグループが多数参加し、当日は展示ホール内及び屋外展示場に設けた「オーガニックマーケット」スペースで、有機栽培で生産した米や野菜、その加工品などを販売しました。

フェスタは10時に主催者あいさつで開会し、展示ホール内のメインステージでは次々とイベントが行われました。「新規就農者トーク」では、船引町の大河原海さん、二本松市の大内良裕さん、喜多方市の大江雄大さんの3名が登壇し、有機農業に対する決意や抱負を語っていました。

14時からのシンポジウムは、コーディネーターに福島市の有機農家の小池光一さん、パネラーに二本松市の有機農家の関元弘さん、穀物菜食レストラン「銀河のほとり」の有馬克子さん、ジャーナリストの藍原寛子さんの3名で行われ、熱心に討論されていました。また、特別ゲストの秋吉久美子さんと会場からの質問にも丁寧に答えていました。



菅野正寿 実行委員長のあいさつ



「新規就農者トーク」の3名



秋吉久美子さんも加わってのシンポジウム

屋外展示場では、『二本松有機農業研究会』が餅つきを行い、視察にいらっしやっていた森まさこ大臣や村田副知事、秋吉久美子さんも加わっていました。その後、マーケット内を巡りながら出展者たちと言葉を交わしていました。

当日の入場者数は、東京からのバスツアー客90名を含め、県内外から3,000名にも達しました。有機食材を使った料理を提供したコミュニティカフェも盛況で、用意した料理は完売していました。

最後に、全員で「ふるさと」を合唱して、フェスタは16時に終了しました。



森大臣も餅つきに参加



最後に全員で合唱しました

## 喜多方市鈴木農園が有機JAS認定を取得

会津農林事務所農業振興普及部

今年9月、喜多方市山都町の鈴木農園（鈴木隆氏）が福島県（認定機関）から有機JAS認定事業者としての認定を受けました。

鈴木農園は、水稲とアスパラガスを主体とした営農に取り組み、喜多方市の有機農業生産者グループ、「喜多方ゆうきの和」の会員として活躍されております。

今回認定を受けたのは、アスパラガスの栽培圃場50aです。鈴木農園のアスパラガスは、露地栽培が40a、ハウス栽培が10aと露地栽培主体となっています。

アスパラガスの有機栽培は、ハウス栽培で取り組まれている方はおりますが、これまで露地栽培では、「病虫害の発生リスクが高く、有機栽培は不可能」と言われてきたため、鈴木農園のようにまとまった面積での栽培取り組みや認定取得は、県内でも初めてと思われま

す。鈴木さんは、今回の認定を機に「今後は、露地野菜や水稲にも有機栽培を広げ、有機JAS認定を取得していきたい」と抱負を語っておられました。

今後の鈴木農園のますますのご活躍と、福島県の有機の和がますます広がることを期待しています



鈴木農園 鈴木 隆さん

## 実証ほ設置農家が新たに有機 J A S 認定を取得！

農業総合センター有機農業推進室

今年9月20日付けで、二本松市太田の「ジオファーム」(代表者：梅谷勝義氏)が、認定機関『福島県』から有機 J A S 認定事業者として認証されました。

梅谷さんは、昨年から県有機実証ほ設置農家として、技術の習得に励んで来られました。昨年は、堆肥と緑肥作物(春に規格外大豆、秋にライ麦を播種)を組み合わせることで、短期的に土作りをするための実証を行いました。そして本年度は、スナップエンドウの露地秋播きという作型で、被覆資材等を用いた越冬管理技術を検証しています。この試験における病虫害防除の手段は、有機 J A S 適合の生物農薬で対応する予定です。



梅谷勝義さん

スナップエンドウを秋播きする目的は、野菜の出荷体系の中で、春先に出荷する野菜を確保するためです。出芽させてから越冬させることで、春播きよりも早く出荷できます。これから籾殻を投入し、パオパオ等の被覆資材でベタ掛けすることで越冬させる予定です。

梅谷さんは、震災後に東和地区に移り住んできて、研修生として野菜の有機栽培農家で学んできました。今までは『オーガニックふくしま安達』の構成農家として、活動しています。



出芽したスナップエンドウの芽



出芽を観察調査

### 《お知らせ》

- 第2回**福島県有機農産物認定業務講習会**が開催される！

認定業務講習会が、1月30日(木)に農業総合センターで開催されます。

認定機関である『福島県』から有機 J A S 認定を取得するためには、この講習会を受講しなければなりませんので、希望者は必ず受講して下さい。

事前申し込みが必要です。申し込みは、当センター

**指導・有機認証課** TEL 024-958-1708 までお願いします。